

実施日：12月9日（6校時）	
教科等：特別の教科 道徳	
取組名：違いを乗り越えて （資料「声を聴こう」兵庫県中学生人権教育資料『きらめき』令和5年度版）	
対 象：2年生	実施場所：教室
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国にルーツをもつ人たちも、自分たちと同じ「生活者」であることに気付く。</li> <li>・ 外国にルーツをもつ人の状況（来歴や背景等）や思い、願いを知り、自分事として捉えることで、外国にルーツをもつ人たちとの適切な関わり方について考える。</li> <li>・ 日本に暮らすあらゆる人が、違いを認め合いながら共に生きていく「多文化共生社会」をつくろうとする意欲を高める。</li> </ul>	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国人労働者の受け入れについて、様々な観点で議論されているが、社会の状況（労働者人口の減少）や歴史的背景、様々な事情があるということに気付かせる。</li> <li>・ その後、班の生徒同士で意見交流を行い（ペアワーク・コミュニケーション）、問題点とその理由について共通理解をはかる。</li> <li>・ さらに、それぞれの事例に対して、本来どのように行動すべきだったかを個人で考えた後に、班の生徒同士で意見交流を行い（ペアワーク・コミュニケーション）、考えを深める。</li> </ul>	
ウ 連携先：地域	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <p>トライやる・ウィークの事業所に日本語学校があるので、交流が可能か検討する。</p>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自らの考えをまとめ他者に伝えることで、コミュニケーション能力の育成を図る。</li> <li>・ ペアワークやグループ対話、クラスでの意見の共有など、相手の考えや意見を聞き、受け止め、自分の考えをさらに深める機会を設ける。</li> <li>・ 日常生活場面でも、生徒間、生徒教師間で相手の立場や考えを尊重したコミュニケーションがとられているか、互いに意識し合う。</li> </ul>	
<p>カ 評価の方法</p> <p>ワークシート、感想</p>	
<p>キ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒たちにとって今まであまり考えることのなかった外国人の状況（来歴や背景等）や思い、願いを知るとともに、外国人を取りまく社会情勢などについて考える姿が見られた。</li> <li>・ 生徒の感想から、自分も多文化共生社会を築く一員であるという自覚が芽生えた様子が見えた。</li> </ul>	
<p>ク 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本に住む外国人が増えている現状を、地域の写真（店や日本語教室など）を活用することで、身近に感じられる工夫が必要である。</li> <li>・ 人権教育資料に提示されている複数の事例を全て扱うのではなく、学校の実態に応じて、一つの事例に焦点を当て、クラス全体で深掘りするという方法をとることも有効である。</li> </ul>	